

# 難波西鶴と



【69】

森田 雅也

前回は「西国」という語について述べました。西鶴は「西国」を「九州」として使用する場合がありますが、それは上方が西の地方と九州航路で結ばれているという強い意識からだったのでしょうか。

森田 雅也 的知識を得ていたことも紹介しました。さらに南下がれば、鹿児島、琉球に通じ、そのルートからも西鶴が情報を得たことは薩摩中心に述べました。

そのルートの西国米の拠点、八代があります。熊本県南西部、八代平野の中心に位置するこの地は、球磨川河口に位置し、八代海に臨んでいます。その「球」より浪人し、正保4(1647)年大坂大満宮の連歌所宗匠となる。また俳諧に

この海の道の一つに、上方から瀬戸内、福岡を経て長崎に至る航路があり、西鶴に長崎と上方を往来し、ついで四十八瀬もあることから、水運利用は困難でした。とほすでに書きました。

そので寛文2(1661)年、林藤左衛門正盛が、水路開発の許可を吉藩藩主相良頼喬にうけ、同5年大石割除の難工事を完成し

した。以来郡中産物の輸送や参勤交代路として活用されました(『国史大辞典』)。近世の海川の集積地が経済と文化を生耳った例は大和川と大坂、最上川と酒田で述べてきた通りです。「八代」も藩の米蔵が設けられ、城下町・港町・宿場町・物資集散地として栄えました。「八代と文化」といえば、西鶴の俳諧の師「西山宗因(1605-1688)」の出身地として知られます。

もちろん、長崎が、鎖国時代の日本と世界を結んだ国際港でしたので、西鶴がその世界との接点から国際

石割除の難工事を完成し

乗っていました。西山宗

た。以来郡中産物の輸送や参勤交代路として活用されました(『国史大辞典』)。

近世の海川の集積地が経済と文化を生耳った例は大和川と大坂、最上川と酒田で述べてきた通りです。「八代」も藩の米蔵が設けられ、城下町・港町・宿場町・物資集散地として栄えました。「八代と文化」といえば、西鶴の俳諧の師「西山宗因(1605-1688)」の出身地として知られます。

「肥後(熊本県)八代城代加藤正方の小姓としてつかえ、京都で里村昌琢に連歌をまなぶ。主家改易により浪人し、正保4(1647)年大坂大満宮の連歌所宗匠となる。また俳諧に

関心をよせ、軽妙な句風の談林俳諧を大成、貞門派を

「倒した」(『日本人名大辞典』)

西鶴は初め「鶴水」と名乗っていましたが、西山宗

# 西国米の拠点・八代

## 好色一代男「八代衆」出身地

因に師事することによって、「西」の字をもらい、「西鶴」となりました。ちなみに宗因は、以前紹介したように芭蕉の師でもあり、江戸時代の代表的な連歌師、俳人として名を残しました。しかし、八代の地で活躍したわけではありません。

むしろ、西鶴当時、「八代」の地は「好色一代男」にも出てくる「八代衆」の出身地として知られていました。かつては「人吉衆」とともに国政にも参与した肥後の代表的な国人衆でしたが、「好色一代男」に描かれる「八代衆」は大坂新町遊郭で大夫遊びする姿です。米商人御用達の社交場新町ですから、西国米を運んで、相当繁盛していたのでしようね。

(関西学院大学文学部文学言語学教授)